

令和3年度第2回立川市総合教育会議 議事録

開催日時 令和3年11月11日（木曜日） 15時30分～16時16分

開催場所 立川市役所208・209会議室

出席者 [構成員] 清水庄平（市長）、小町邦彦（教育長）、伊藤憲春（教育長職務代理者）、
嶋田敦子（教育委員）、小林章子（教育委員）
[事務局] 栗原寛（総合政策部長）、大野茂（教育部長）、横塚友子（子ども家庭部長）、浅見知明（総合政策部企画政策課長）、前田元（教育部指導課長）、齋藤慎司（教育部指導主事）、五箇野豊（子ども家庭部子育て推進課長）

議事日程 1. 議題

- (1) こどもとおとなのほなほ in 市議会議場
 - (2) 令和3年度全国学力・学習状況調査における分析結果について
 - (3) 令和3年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について
2. その他

議事録

（市長）

定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第2回立川市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議は、議題が3件ございます。議事進行につきまして御協力をよろしく願います。

1. 議題

(1) こどもとおとなのほなほ in 市議会議場

（市長）

それでは、まず次第の1、議題、(1) こどもとおとなのほなほ in 市議会議場についてです。

子育て推進課長から説明をいたします。

（子育て推進課長）

皆さん、こんにちは。子育て推進課長の五箇野と申します。本日、机上に追加でこのクリアフォルダに入れて資料を配付させていただきました。この資料の説明については、御報告の中で改めてさせていただきたいと思っております。以後、着座にて御報告させていただきます。

それでは、改めまして子育て推進課より令和3年9月12日に開催いたしました第4回こどもとおとなのほなほ in 市議会議場について御報告いたします。

この事業は、本市の子どものための総合計画、夢育て・たちかわ子ども21プランの基本的な視点の1つである、子どもの権利を尊重する視点を市民、行政等で共有するため、市の主催事業として実施しているもので、平成30年4月に市と協定を締結した市民団体ウドラ夢たち基金と連携、協力して開催いたしました。

当日は、4グループの子どもたちが、あったらいいなこんなもの、できたらいいなこんなことのテーマの下、提案の発表を行いました。

ファシリテーターは第3回のこどもとおとなのはなしあい in 市議会議場で子どもの権利に関するクリアフォルダの作成の提案者でもあった夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議の松本委員にお願いし、提案の聞き手は審査員としてウドラ夢たち基金の皆さんのほか、オブザーバーとして夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議の委員の方が加わりました。

子どもたちからの提案には、①みんなのためになる提案であること。②ウドラ夢たち基金の50万円を使うこと。③提案したら1年以内に自分たちで本当にやることという条件があります。単に要望を述べるだけでなく、実現に向けて必要な予算や自分たちができること、大人に手助けしてほしいことを併せて提案するなど、子どもたち自身の考えを自らの言葉で発表することができました。

大人からは、提案がより具体化するよう的確な聞き取りやアドバイス等があり、子どもと大人が向き合って真剣な議論が行われました。

子どもたちの提案内容は、「ねこちゃんを救え！ねこのじょうと会！」、「ぼくたちの学校のみどりを知ろう！」、「ゴミを減らそう！」、「幸せを守る！！」の4つです。

審査結果は、3つのグループの提案が認められ、1つのグループの提案は、実現に向けた検討が不足していることから再提案の扱いとなりました。実現に向けてそれぞれのグループが取組を今も行っております。

終了後のアンケートでは、参加者、傍聴者のほぼ全員から高い評価をいただきました。今後も子どもたちの意見表明の機会の確保に努め、達成感を得られる取組を続けてまいりたいと考えております。

最後に、本日配付させていただいた4点の資料について御説明させていただきます。

まずこちらの緑色のパンフレットになります。こちらは、ウドラ夢たち基金の紹介パンフレットとなっております。中を開いていただくと、過去のこどもとおとなのはなしあい in 市議会議場の取組についても掲載されております。

次に、こちらの片面カラーの両面刷りのチラシになりますけれども、こちらのチラシは子どもたちからの提案を募集する際に作成したもので、市内の小学校、中学校、高等学校や子ども会、そして、児童館等で配布いたしました。

次に、片面のこちらのカラーの印刷物が当日のプログラムとなっております。

そして、最後に、このクリアフォルダになりますけれども、先ほどファシリテーターの紹介の中で申し上げた子どもの権利に関するクリアフォルダになります。こちらは、令和元年度に市内の小学校4年生から中学校3年生に配布いたしました。

報告は以上です。

(市長)

ただいまの説明につきまして御意見、御質問等はございますか。嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明いただいてありがとうございます。いろいろ見させていただいて、子どもが提案できる、大人に働きかけできるというのは、本当にすばらしい貴重な体験になるなど

思います。本当に大きな自信になるだろうなと思います。

大人のほうも子どもから教わることが多いと思うんですけど、すごいね、で終わらずにちゃんと一緒になって、一緒に考えて実現まで持って行ってらっしゃるといのは、本当にすごいことだなと思います。

このクリアファイルもとってもすてきで、子ども自身が自分にこんな権利があるんだと知らない子どもも多いだろうと思うので、こういうものをぜひ継続して配っていただけたらうれしいなと思いました。よろしくをお願いします。

(市長)

御意見ということでよろしいでしょうか。

(嶋田委員)

はい。

(市長)

ほかに御発言される方は、いらっしゃいますか。小林委員。

(小林委員)

とてもすてきな企画を御紹介いただき、ありがとうございます。こういうことに参加した子どもたちは、問題意識を持っていろいろ対策を考えたり、提案したり、発表したり、行動に移したりと、いい学びをしているんじゃないかというふうに思います。

これは、募集の質問になるかと思うんですけども、大体どのくらいの子どもたちがやってみようというふうな気持ちで応募されたのか、その辺ちょっと教えてください。

(市長)

子育て推進課長。

(子育て推進課長)

失礼いたしました。子どもたちからの提案は、全体で 16 のグループからいただきました。その中で先ほどのウドラ夢たち基金の方、そして、夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議の皆さんに、その中から実現性のあるもの、また、取り組んでいく過程がしっかりしているものというんでしょうか、物をただ買いたい、これが欲しいとか、お金をそこでもらって買って終わりというものだと、その後の取組がないので、ここで認められた後、まだ継続して子どもたちが何か実現のために取り組んでいけるような提案を採択しようということで、16 個の提案の中から 4 つのグループを選び、この当日の発表につながったというような状況です。

以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

ありがとうございます。今、16 グループというお話で、うわーという声がちょっと聞こえてきましたけれども、かなり大勢の応募があったんじゃないかなというふうな気がいたしました。

ここのファシリテーターの松本零さんの略歴を見ても、「中学 2 年生から子ども委員会に参加し」という、そして、今はこうやって活躍されているということで、ここが原

点なんじゃないかというふうに感じられます。

こういうふうを経験をして、子どもたちがこの松本零さんのように成長していくというのは本当に理想の姿なので、これからもぜひそういう子どもたちを輩出していただきたいと思います。

ありがとうございます。

(市長)

ほかに御質問の方。伊藤委員。

(伊藤委員)

御説明ありがとうございます。とても素晴らしい試みだと思うんですけども、本当に申し訳ないんですが、私よく知りませんでした。やっぱりPRをどうやっていこうとか、それから、例えばこの結果をどういうふうに、この結果として子どもたちが活動したのがどうなったかとかということを、例えば市役所のロビーを使って発表をすとか、何かできれば、少しでも市民の人たちに分かるようにお知らせいただければありがたいなという提案でございます。

以上です。

(市長)

子育て推進課長。

(子育て推進課長)

確かに御指摘いただいたとおり、今回、来場者にアンケートを取らせていただいたんですけども、その中でも、やはりどういうふうな結果になったのか知りたい、そういう発表の機会を設けてほしいというような声もいただきました。

例年ですと、翌年、また来年度も同じ会を開催する予定ではありますので、その中で報告の部を設けるとか、そういったような形で何がしかのそういう発表の機会は、我々も設けたいと考えております。

以上です。

(市長)

伊藤委員、よろしいですか。

(伊藤委員)

はい。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

そのPRの件で、ホームページを見せていただいたんですけど、これは見当たらなかったんですが、私の探し方が悪かったんでしょうか。

(市長)

子育て推進課長。

(子育て推進課長)

今回の案については、例年、これは結果が出たところで載せているというような体制を取っていますので、前回までの分は、今ホームページには載っているかと思うんです

けれども、市のホームページには、今のところは前回やった結果までということです。

あと、これとは別にウドラ夢たち基金のホームページもございまして、そちらのほうでは現在というか、この発表までは載せていただいているような状況です。

以上です。

(市長)

よろしいですかね。

(2) 令和3年度全国学力・学習状況調査における分析結果について

(市長)

それでは、次に、(2) 令和3年度全国学力・学習状況調査における分析結果についてに移ります。事務局の指導課長から説明をいたします。

(指導課長)

それでは、令和3年度全国学力・学習状況調査における分析結果の報告をさせていただきます。

お手元の資料を1枚おめくりいただいて、1ページ、2ページを御覧いただければと思います。

今年度も立川スタンダード、基本的な学習の指導資料に基づいて分析を行いました。1枚おめくりいただきまして、3ページ、4ページを御覧ください。小学校国語の調査結果になります。

3ページの上段を御覧ください。平均正答率、本市は全国より0.7ポイント下回る結果となりました。こういった結果に基づいて課題のある問題を取り上げて整理しましたのが、5ページ、6ページになります。どういう問題で間違いが多く出てしまっているのか、そして、こういった間違いが起きないような指導というのは、どのようなことを行えばよいのか整理をさせていただきました。

1枚おめくりいただきまして、小学校算数についてです。

小学校算数につきましては、7ページの上段にございますように全国の平均を上回る結果となりました。ただし、課題がないかといえはそうではありませんので、9ページ、10ページで課題の見られた問題について解説をしているところでございます。

次に、11ページを御覧ください。中学校国語の結果についてです。

11ページ上段、中学校の国語については、全国の平均を2.4ポイント上回る結果となりました。同様に13ページを御覧いただくと、中学校国語の中でも課題のあった問題について整理をしてございます。

15ページを御覧ください。中学校数学の結果でございます。

中学校の数学では、全国平均を3.8ポイント上回る結果となりました。17ページ、18ページは、同様に問題を整理してございます。

19ページ、20ページについてです。子どもたちの学習への取組方について調べてございます。積極的に学習に取り組んでいる子どもたちの正答率が高い傾向を見ることができますが、これは、これまでの傾向と変わりはありません。

21ページ、22ページを御覧ください。生活習慣に関する調査結果です。

この中で、大きなといいますか、変化が見られているのが 21 ページの「②学校に行くのは楽しいと思いますか」、小学校では僅かに平成 31 年度と比べまして減少、中学校においては明らかな減少が見られてございます。

また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」、22 ページの上段でございますが、これについては、小学校、中学校ともにやや減少というところでございます。

こうした傾向の結果につきましては、昨年度、新型コロナウイルス感染症対策ということで、学校では多くの学校行事を縮小、あるいは中止とせざるを得ない部分がありました。そういった中で、中学校においては部活動も長期間にわたって止めていたことから、学校の魅力が子どもたちにとって減ってしまったのではないかとというふうに分析してございます。

また、子どもたちが地域に出て学ぶ機会というのを、新型コロナウイルス感染症対策の観点から控えていただいた側面があります。そういったことから肯定的な回答をしたグループというのが減少しているのではないかとというふうに分析しているところです。

大きく御説明いたしましたけれども、以上が分析結果の報告になります。

以上です。

(市長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等がございましたら御発言ください。伊藤委員。

(伊藤委員)

御説明ありがとうございます。また、すばらしい結果の分析、ありがとうございます。小学校の国語、算数につきましては、以前より少し遅れていたところがあるのが、随分回復してきているんだというような感じで、中学生は当然、以前よりもどんどんよくなってきているのではないかなという気がいたします。

それから、もう一つ顕著に見えるところとしては、以前は何しろフタコブラクダという形で、下のほうに 1 つ山があって、どうしてもその辺の問題点があったというような形ですけれども、やはり今は本当に全体的なバランスとして A、B、C、D 層がより A B に寄りながらいいところに持ってきているなというような感じは、皆さんの指導のおかげであるというように考えます。

それから、先ほどお話もありましたけど、コロナ禍においてどうしても子どもたちの気持ち、それから、家庭の環境、いろいろな意味での問題があるなという中で、確かに朝食であるとか、それから、楽しいとか、そういうことがマイナスではありますが、全体的にこの厳しい世の中の中で微増というか、マイナスと考えられることが微増であるということは評価できるのではないかなという気がいたします。

ただ、これを元に戻す、また、増加するということがこれからの課題であり、これからコロナがこれで収まってくれるかどうかは、今ちょっと分かりませんが、ぜひこれからそれを元のような形に戻していくというような努力をお願いをしていきたいなというように思っております。

この分析結果における感想というか、意見はそういうところでございます。ありがと

うございました。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

ありがとうございます。特に各教科の結果につきましては、小学校では若干全国平均を下回る部分がありましたけれども、全国との平均の差というのは確実に詰まっておりますし、小学校算数、それから、中学校の2つの教科については、全国を上回る結果となりました。

昨年度、2か月間の教育活動を行えない期間があったにもかかわらず、こうした結果となったのは、各学校が未履修を出さない中で、教育活動を止めないというところで一生懸命指導した結果がつながっている部分が大きいかなというふうに思っております。

そのことで、やはり学校は楽しい場所でなければいけないと私自身思っておりますので、分かる授業プラス楽しくて面白い授業というのが各学校でつくれるように、この資料を携えて各学校を訪問させていただきながら、授業改善に努めてまいりたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

以上です。

(市長)

ほかに、御意見のある方はいらっしゃいますか。嶋田委員。

(嶋田委員)

ありがとうございます。大変細かく分析して、授業の改善のポイントも示してくださっていると思います。

設問のところかというと、訳を書くとか、どう思うとか、説明するとかといったところで無回答が多いというのは、やはりまだ主体的に考えることが苦手な児童・生徒が多いのかなと思いました。

あと、コロナによる影響は限定的ということですが、先ほどの教育委員会定例会で不登校のお子さんが増加しているというお話もありましたので、そういった児童・生徒にもフォローをお願いしたいなというふうに思います。

そして、私がやはり一番気になるのは、21ページの朝食を食べていない、あるいはあまり食べていないというお子さんが一定数いるということです。やっぱり長時間空腹でいるというのは、いらいらしたりとか、授業にも集中できなかったり、発達段階の子ども健康にも悪影響があると思います。朝食を食べない子の中には、夜遅くまでスマートフォンを見ていたりといったこともあるかもしれません。

この朝食を食べていない回答をした子どもや保護者に対して、その後のフォローというのはいただいているのでしょうか。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

各学校では、特に長期休業明けのときに、生活リズムを元に戻そうということで、一

般的に言われている早寝、早起き、朝御飯ではないですけども、しっかり朝御飯を食べて生活リズムを元に戻して学校生活を始めようというような形での指導を行わせていただいているところです。

また、この結果については、個別の回答の中で、子どもたち自身がどういうふうに自分の生活を捉えて改善していくかという部分で、小学校、中学校ともによりよい生活リズムに向けた指導というのは展開しているというような部分があるかというふうに思っています。

以上です。

(市長)

嶋田委員。

(嶋田委員)

ありがとうございます。このアンケートは、入り口だと思いますけれども、やはり食べないというお子さんにちょっとお声がけ、保護者にも、準備するのが大変だったら、バナナ1本でもおにぎり1個でもいいから食べさせてあげてくださいねと、何かお困りだったら言ってくださいねといったような、暖かいお声がけもしていただけるとありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

去年はできなかった学力調査、今回、結果発表になって数字が気になる場所なんですけれども、それと同時に、この結果を授業に生かすということが目的でもあると思うんですが、授業の改善、それはどういう形でチェックをするのか、各先生が授業改善に取り組んで実際に授業をするというときに、PDCAのサイクルがありますけれども、そのチェックの部分、それはどういう形でやっているのかということをお教えください。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

ありがとうございます。この全国学力・学習状況調査の結果を生かしたPDCAのサイクルについてですが、実は各学校では、今年度の調査結果に基づいて授業改善推進プランというのを作成してございます。これらについては、各学校のホームページ上で公開するようというところで指示を出させていただいておまして、ほぼ今、各学校でホームページアップのほうで完了している状態かというふうに把握してございます。

その授業改善推進プランに基づいて、教員たちは改善した授業を行ってまいります。つまりPDCAでいうところのDになります。

チェックの部分は、じゃあどこになるのかというふうになると、次年度のこういった調査結果の中で、その効果が現れていくかどうかというようなところになります。これを分析して、またアクションとして授業改善の方策を考えて、またプランを立ててというような形で実施していくことで、各学校、授業改善に取り組んでいるところでございます。

以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

先生方、とてもお忙しくて大変ですけれども、私は授業が一番大事だと思っています。授業の中に先生の資質とか、能力とか、それから、意欲、人間性などが全部現れると思いますので、いい授業をしてくれる先生には子どもたちもついてくるというふうに私は思っているんですね。

これを基に授業を改善して、実際に授業をされていて、どなたかせっかくいい授業をしようと思っている先生の授業を評価する、見てもらうということはどうなんでしょう。していらっしゃるかどうか。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

各学校の中では、授業参観及び管理職による授業観察というのは、学期に1度、管理職による授業観察と教員同士の授業参観というのは行われているところでございます。

特に、若手教員が多くなってきてございますので、ベテランの先生方に見せてくださいと自分から申し込んで授業を学んでいるような若手教員も出てきているというふうに聞いているところです。

また、授業が大切な部分もあるんですが、例えばこういった調査の生かし方でいいますと、古い時代の調査になりますけれども、東京都の子どもたちは主語が文の頭になくて文の中に隠れているような場合、主語が何か見つけづらいというようなことがございました。教科書をよく調べてみると、小学校2年生のときに主語、述語というのは初めて習うんですけれども、そこで紹介されている例文は、全て文の頭に主語がある例文が紹介されているんです。

実は、その後すぐ子どもたちが読む文章の中で、日本語の特徴である主語のない文というのが出てくるんですけれども、そこをちゃんと生かしてね、みたいなことがいろいろな教科書の中で取扱いがないというようなことがあります。そういったことがこういった調査を繰り返していく中で分かってきたので、授業の中ではそういったところにも触れていきましょうねというようなお声がけを私どものほうで、今回は違いますけれどもさせていただけってきたというようなところがあります。

当然、ベテランの先生方は、そういった部分を上手に授業の中に取り入れていますので、そういった辺りというのは、管理職のほうからも若手教員に伝達されるというような授業を見合うような部分というのは、各学校、取組が進められているところでございます。

以上です。

(市長)

小林委員。

(小林委員)

本当にいいお手本を見てまねるとするのは、力もつくかと思います。それを実際に自分でやってみるということで、本人の努力もあるかと思います。

よく授業公開とか何か研究発表みたいところで、皆さんに集まってもらって見てもらうみたいな機会がありますけれども、私はいつも行って思うのは、ふだんはどういう授業をしているのかなという感じなんです。多分、その日を目指していろいろ練っていいものをつくり上げているかと思うんですけれども、そのときだけに終わってしまっただけではもったいないので、ぜひそれは身につけていただいてふだんからいい授業をしていただきたい。

思い出すのは、私の子どもが小学校の頃にとってもいい先生がいらっちゃって、いつでも私の授業を見にきてくださいというふうにおっしゃっていたんですね。多分とても自信がある方だったと思うんですけれども、そんなふうに分の努力した授業の成果を見てもらいたいという気持ちの方もいらっしゃるかもしれませんので、何かそういうチェックという言い方は変ですが、披露していただける機会が多くあるといいなというふうに思っております。

(市長)

令和3年度全国学力・学習状況調査における分析結果につきましては、以上で終了いたします。

(3) 令和3年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について

(市長)

次に、(3) 令和3年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について、に移ります。

事務局の指導課長から説明をいたします。

(指導課長)

それでは、令和3年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について御報告をさせていただきます。

お手元に資料があるかと思いますが、本日は、そちらのスクリーンのほうで子どもたちの様子を御覧いただきながら聞いていただければと思います。

細かな説明につきましては、担当の齋藤指導主事からいたします。

(指導主事)

指導課の指導主事、齋藤でございます。私から令和3年度立川市・大町市姉妹都市中学生サミットについて御説明をさせていただきます。

お手元のA3判Z折りの資料と前にありますスクリーンを御覧になって、報告をお聞きいただければと思います。よろしく願いいたします。

本事業は、平成27年度に始まり、今年で7回目となります。平成27年度の第1回では、立川市の中学生が大町市を訪問し、様々な大町市の文化の体験を通し、中学生サミットの共同宣言を作成いたしました。その後、この共同宣言をテーマに据え、第2回からは交互に中学生がお互いの市を訪れ、多くのアクティビティと一緒に取り組む活動を行ってまいりました。

こちらの画面は、平成 31 年度に大町市へ立川市の生徒が訪問した際にアクティビティを楽しむ写真をまとめたもので、上から時計回りにカヌー、そば打ち、ロッククライミング体験、そして、イワナつかみとジビエバーベキューの写真です。

しかし、昨年度の新型コロナウイルス感染症の影響により、立川市にお迎えする第 6 回は、昨年度末の 3 月に G I G A スクール構想で配付されたタブレット P C を用いてオンライン会議での開催となりました。

そして、第 7 回に当たる今年度も大町市が北アルプス国際芸術祭を開催する時期に合わせ、最後まで大町市へ伺えるよう調整を続けてまいりましたが、緊急事態宣言下であること、また、同芸術祭の開催延期に伴い、やむなくオンラインでの開催となりました。

立川市では、8 月 5 日に集合型で事前学習会を行い、本サミットに備えました。その際、生徒を 5 つのグループに分け、それぞれ大町市の文化・芸術について、歴史について、地理・交通について、商業について、産業について調べました。発表は、サミット当日にプレゼンテーションを行いました。発表資料については、生徒が各自のタブレット P C を用いて自宅からでもリモートで発表資料を作成できるようにし、夏休み等を利用してグループごとに資料を完成させました。このスライドが発表資料の一部抜粋をまとめたものです。

9 月 18 日のサミット当日は、大きく分けて 3 つの取組を実施いたしました。1 つは、両市の教育長からのお言葉、次に、立川市からの事前学習についての発表。最後に、新しい学校の生活様式について、中学生同士がリモート会議を行いました。

1 つ目の両市教育長からのお話では、荒井大町市教育長からは、大町市のコロナ禍の現状と学校の状況について伺いました。小町教育長からは、これまでの中学生サミットの歴史を振り返っていただき、どんな厳しい状況になっても立川市と大町市のつながりを途絶えさせてはいけない、逆に強い絆を結んでいかなければいけないという熱い思いを伝えていただきました。スライドは、教育長と代表の生徒がサミットの共同宣言を読み上げているところです。

続いて、立川から見た大町市の発表では、先ほどプレゼンの一部を御覧いただきましたが、しっかりとした発表を行うことができ、大成功に終わりました。大町市の生徒が知らなかったという内容まで網羅され、大町市の生徒自身が自分たちのまちを再発見するよい機会になったという感想ももらうことができました。

最後に、新しい学校の生活様式についてのリモート会議では、各自思い思いの新しい生活について話し合うことができましたようです。例えば「タブレット P C を用いて毎日 6 時間授業から 4 時間授業へ」や、「自粛生活による会話の減少をどう解消するか」など、中学生ならではの発想で新しい生活についてアイデアを出し合っていました。スライドの左側は立川市の生徒、右側が大町市の生徒です。

本サミットを通して I C T 機器を使った学習、交流について指導課としても一定の成果を得ることができ、学校への指導へ今後も生かしていけると考えております。

しかし、今年度で 2 年連続のリモート会議での中学生サミットとなり、直接交流を行うことができておりません。今後とも、大町市とのつながりを途切れさせることなく、子どもたちが大人になっても交流が続くよう、指導課として中学生の指導を続けていき

たいと思います。

御報告は以上になります。

(市長)

立川市・大町市姉妹都市中学生サミットについての説明は以上で終わりました。このことにつきまして御意見、御質問等がございましたらお願いをいたします。嶋田委員。

(嶋田委員)

御説明ありがとうございます。コロナ禍でお互いに行き来するのは難しい状況の中でしたけれども、リモートでも諦めずにやってくれたというのは、本当によかったなと思います。

なかなか立川の子どもたちが立川市以外の生徒と交流する機会というのはないと思いますので、本当にお互いのいいところを認め合うというのは、多様性を認め合うようなところにも通じていくのかなと思います。

ただ、やはりオンラインじゃなくて実際に行かせてあげられたらいいなど、百聞は一見にしかずじゃないですけども思いますので、今回の生徒さんたち、また今後の生徒さんたち、実際に行き来できるといいなと思います。よろしくお願いします。

(市長)

ありがとうございます。ほかの方はいかがですか。伊藤委員。

(伊藤委員)

私も感想なんですけれども、おととし一緒にいろいろなことを発表して、別れるときにはやはり涙がある、これが本当の交流であるというふうに思っておりますので、リモートの中でどこまでできるのか、本当によくやってくれました。

先日も、中学生の主張というところでも、立川の子どもたちは本当にすばらしい意見を持っていますから、大人が少しでもそういうものを引き出してやるようにしていただければ、本当にこの企画はすばらしい企画であるというふうに思っておりますので、これからも頑張っていただければと思っております。

以上でございます。

(市長)

ありがとうございます。小林委員、どうぞ。

(小林委員)

毎年いい成果を出しているこのサミットですけども、本当に残念でした。長野の芸術祭に行かせてあげたかったですね。でも、新しい形での開催ということでのいい成果が挙げられたかと思います。

ただ、この参加した人たちというのは、限られた人たちであるわけで、ここに交流の成果を各中学校へとか、成果報告会、教育フォーラムで報告というようなことで、その後の結果を報告するということが書かれています。それはとても大事なことで、せっかくこういうことをされているので、皆さんにお知らせするというのは大事なことだと思います。

ただ、この実際にやっているところを全員で、各学校のみんなで見られるとかいう方法は、このITの時代にそれはできないかなというふうにちょっと思ったんですけど

も。それか、またはこれはY o u T u b e 発信というのはどうなのでしょうかね。いかがでしょうか。

(市長)

指導課長。

(指導課長)

当日の子どもたちの様子については、本市の子どもたちがタブレットを通じて大町の子どもたちとやり取りをしている様子ですけれども、撮影をさせていただいておりました、その様子については、学校で校長先生方や担任の先生方は見ていただいているような状況で、今回は、そこまででしたけれどもやらせていただきました。

そういった状況をつくることで、経験した子どもたちが学校に戻って報告会等をする場合に、先生方もよく見ていないというような状況では困るので、そのような状況まではつくらせていただいたところです。

それ以上の多くの皆様にタブレットを生かして御覧いただけるかどうかという部分については、通信環境等を含めて何件アクセスしていただけるか、そこで円滑に動くかどうかといういろいろな状況を見ながら、少しでも多くの皆様に御覧いただけるような努力というのはしていきたいなというふうに思っております。

以上です。

(市長)

令和3年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」については以上で終了といたします。

本日予定されている議題は、以上でございます。

2. その他

(市長)

続きまして、次第の2であります。その他に移ります。事務局の企画政策課長から説明いたします。

(企画政策課長)

本日は、ありがとうございました。

本日の議事録につきましては、後日、委員の皆様にご確認いただき、市ホームページ、市役所3階の市政情報コーナーで公開いたします。

次回の総合教育会議につきましては、令和4年1月13日、木曜日、15時30分から、こちらの庁舎の3階、302会議室にて開催を予定しております。

以上です。

(市長)

ただいまの発言に御質問等ございましたか。

特にないようでございます。

その他につきましては、御発言等がございましたらどうぞお願いいたします。

特にないようでございますので、以上をもちまして令和3年度第2回立川市総合教育会議を閉会といたします。

大変お疲れさまでした。御協力に感謝いたします。ありがとうございます。

——了——